

# 主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	総合政策部
	17095	行政情報番組提供事業	課名	政策課 広報秘書G
	施策の大綱	05:市民力・地域力の活性化	財務科目	01:一般会計
	基本施策	02:市民参画・協働の推進と多様な交流活動の促進	款	02:総務費
	施策の方向	01:市民参画・協働の推進	項	01:総務管理費
戦略プロジェクト	-	目	02:広報活動費	
事業予定期間	H 15 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等		

目的・概要	対象	ケーブルテレビ加入世帯
	目的	動画の特性を生かして、市の各種施策・制度やイベントなど地域に密着した情報を、より分かりやすく提供することで、市民のまちづくりへの参画を促進する。また、番組づくりへの参画や動画による本市の魅力の再認識により、自分たちの暮らすまちに対する愛着を高める。
概要		市の各種施策・制度やイベント情報などを盛り込んだ行政情報番組を制作し、毎週更新して放送する。特に、市民アナウンサーや中高生アナウンサーの活用、市民活動団体の出演協力を得て、市民に親しまれる番組づくりを行う。平成23年度に導入した文字情報放送機器について、メーカーサポート期間の終了に伴い、今後も安定して文字情報を放送するため、機器更新を行う。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	行政情報番組制作及び放送管理 ・年間番組制作・放送(毎週更新) ・市民アナ、中高生アナ等の活用 ・伊賀市・甲賀市との番組連携  文字情報の提供及びシステム管理 ・イベント、募集情報の提供 ・緊急情報(災害、選挙等)の提供 ・文字情報放送機器の更新準備	行政情報番組制作及び放送管理 ・年間番組制作・放送(毎週更新) ・市民アナ、中高生アナ等の活用 ・伊賀市・甲賀市との番組連携  文字情報の提供及びシステム管理 ・イベント、募集情報の提供 ・緊急情報(災害、選挙等)の提供 ・文字情報放送機器の更新	行政情報番組制作及び放送管理 ・年間番組制作・放送(毎週更新) ・市民アナ、中高生アナ等の活用 ・伊賀市・甲賀市との番組連携 ・スタジオセット改修  文字情報の提供及びシステム管理 ・イベント、募集情報の提供 ・緊急情報(災害、選挙等)の提供	
	年度実績	○行政情報番組制作及び放送管理 ・年間52番組(通常48回、ダイジェスト4回) 市民アナ39回、高校アナ7回、中学生3回 小学生(初企画)3回 市民アナ等出演協力14回 ・「となりまちいこか」番組交換4回 ○文字情報の提供及びシステム管理 ・定期放送207回、緊急放送は随時放送	行政情報番組制作及び放送管理 ・年間52番組(通常48回、ダイジェスト4回) 番組アナ38回、高校アナ5回、若者会議3回 コロナ禍により小中アナ企画中止 番組アナ・活動団体等出演協力11回 ・「となりまちいこか」番組交換1回 文字情報の提供及びシステム管理 ・定期放送168回、緊急放送は随時 ・文字情報放送機器の更新実施(12月)		
事業費	計画額	事業費	25,400千円	30,500千円	25,600千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	25,300千円	27,400千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
決算額	事業費	25,032千円	26,966千円	0千円	
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
人件費	総人件費	3,925千円	3,920千円	0千円	
	一般職員	3,925千円	3,920千円	0千円	
	所要人員	0.50	0.50		
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		28,957千円	30,886千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	年間番組制作数	計画値	52	53
		毎週更新し、1年間継続して放送した場合の番組制作数	実績値	52	52
			単位	番組	番組
	名称	番組制作に対する市民参画回数	計画値	60	64
		市民アナウンサー、中学生アナウンサー、高校生アナウンサー、市民活動団体等の番組への出演回数	実績値	66	57
			単位	回	回
	名称	市外への番組提供回数	計画値	4	4
		伊賀市、甲賀市との広域連携に基づく市外での番組放送回数等	実績値	4	1
			単位	回	回

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 幅広い世代に親しまれる行政情報番組を制作するため、より多くの方に関わっていただけるよう、広報サポーター制度を整備して、番組づくりに対する新たな参画を呼び掛ける。また、市シティプロモーション戦略の考え方を踏まえ、市民や市民活動団体など自らがまちの魅力を発信し、まちに対する愛着や誇りが高まるような番組づくりを行う必要があるため、企画段階から市民や市民活動団体などに出演していただく機会がないかを意識しながら調整を行う。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 市の各種広報発信に対して、より多くの方に関わっていただけるよう、新たに整備した亀山市広報サポーター設置要綱に基づき、番組アナウンサーの募集・登録を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、可能な範囲で市民や市民活動団体等に番組出演いただけるよう、企画段階から担当部署との調整を行った。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止や対人取材が困難になる中、新型コロナウイルス感染症対策関連情報を適宜放送するなど、年間52週に亘り臨機応変に番組編成を行うとともに、小・中学生アナウンサーの出演企画は中止せざるを得なかったが、可能な範囲において市民参画による番組づくりに努めた。また、国史跡指定の答申を受けた鈴鹿閑跡など地域資源を紹介する番組を制作するとともに、11月には伊賀市・甲賀市との広域連携でケーブルテレビ番組の交換を行った。このほか、市広報かめやま掲載情報を基に、文字情報を定期的に放送するとともに、文字情報放送機器の更新も行った。	B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 新型コロナウイルス感染防止対策をはじめ、感染症対策の新しい事業や制度を紹介する番組を随時放送することで、市民が必要な情報を取得できる環境を整えた。また、新型コロナウイルス感染症の状況を見定めた中で、6月から番組アナウンサー収録を再開するなど、可能な範囲で市民参画を得て市民に親しまれる番組づくりに繋げることができた。さらに、地域の歴史資産や創業の事例等を発信する番組を制作することで、まちの魅力を再認識する機会を設けることができた。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 コロナ禍において必要な情報を市民に届けることができるよう、適時的確な番組の編成を行うとともに、年間を通じて番組放送が継続できるよう、感染防止対策に注意し番組収録を行う必要がある。また、幅広い世代の市民に親しまれ、まちの魅力を再認識できるような番組企画を引き続き行う必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合、その内容を記載]
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 コロナ禍に適時的確な情報発信ができるよう、感染症対策に十分注意するとともに、庁内関係部署や委託事業者との収録調整を迅速に行う。市民に親しまれる番組づくりのため、市民や学生アナウンサーの活用を継続するとともに、市民や活動団体等の出演協力を依頼し、番組づくりに関わる機会を作る。また、歴史やイベントなど地域資源に着目し、そこに関わる人に焦点を当てた番組企画を検討する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 コロナ禍で、市民が必要とする情報を適時的確に発信するとともに、年間を通じて行政情報番組を放送することで、行政情報収集手段の1つとしてのケーブルテレビの定着が図れる。市民に親しみやすい番組づくりを行うことで、市政情報等を広く周知できるとともに、まちへの愛着の醸成に繋がる。まちの魅力を自ら発信するなど、市民が番組制作に関わることで、市政への参加が促進される。	
対応時期		令和3年度	

【1次評価者】	総合政策部 政策課 広報秘書グループリーダー 末崎 照美
【最終評価者】	総合政策部 政策課長 笠井 武洋

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A	B	
	成果	A	A	A	B	

令和2年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		27,400 千円
内訳	令和元年度からの繰越額	千円
	令和2年度の最終予算額	27,400 千円
	令和3年度への繰越額	千円